

メッセージアウトライン

コリント人への手紙 第一13:4~7「愛の特質」

[4]「愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません」

パウロは13:1~3でどれほどすばらしい賜物を持ってしようと、愛がないなら何の値うちもなく、何の役にも立たないと教えた。それほど重要な愛とはどのようなものか。ここで使われている「愛」は原文のギリシヤ語では「アガペー」ということばが使われている。この「愛」は相手に愛される資格のあるなしにかかわらず、自己を与える愛、自己犠牲の愛と言える。→ I コリ3:16 この「愛」の特質は、①寛容…自分に対して反対する者、害を加える者に対して、復讐せず受け入れ続けていく態度。②親切…積極的に他人の益になることを行っていく態度。③人をねたまない④自慢しない⑤高慢にならない…ねたみ、自慢、高慢、このような思いはキリストとの交わりから目をそらすときに心を支配する。愛はこのような思いとは反対のものである。

[5]「礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、」
⑥礼儀に反することをしない…誠実で正義を重んじ、ことばや動作を慎む。人をつまずかせない等。⑦自分の利益を求めない…自分の当然の権利でも他の人のためにそれを放棄するという態度。→ローマ15:1~3 ⑧怒らない…特に個人的なことで、カッとならない、かんしゃくを起こさない、いらだたない態度。→箴言16:32 この世の偽善や悪や罪に対しては私たちは怒る必要がある。イエスもそのようにされた。→マタイ23:13~33
⑨人のした悪を思わない…人が自分にした悪をいつまでも執念深く覚えていない。

[6]「不正を喜ばず、真理を喜びます」

⑩不正を喜ばない…邪悪なことや不義、不正に対して、それがどんなに成功し、繁栄しているように見えても、それを認め、満足し、喜ぶことはしない。→マタイ21:12~13
⑪真理を喜ぶ…愛は真理を、真に善なるものを大いに喜ぶ。

[7]「すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます」

⑫すべてをがまんする…原語には「覆^{おお}う」という意味がある。人の欠点や心の傷を覆いあからさまにしない態度。⑬すべてを信じ…いかなる環境の中にあっても信仰を失わないこと。神のみことばの約束を絶対的に信じ、信頼し、人との関係においては常にその人を信じ、信頼していく。⑭すべてを期待する…神は必ず最善をなしてくださると信じ期待すること。⑮すべてを耐え忍ぶ…じっと座ってただ消極的に何かをがまんするというのではなく、困難に耐えながら、それを克服し変えていく力。

これらのすべては私たちの主イエス・キリストご自身の生涯において見られる特徴であった。私たちはこの愛において多くの欠けを覚える者であるが、愛においても豊かに満たしてくださる主を信じ、主に願い、祈りつつ、積極的な愛の人と変えられていきたい。